

2013 年度 小委員会活動成果報告

(2014 年 2 月 12 日作成)

小委員会名	都市の水辺小委員会		主 査 名：市川尚紀 就任年月：2013 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (水環境運営委員会)		委員長名：田辺 新一 主 査 名：大塚雅之
設 置 期 間	2013 年 4 月 ～ 2015 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	設置目的：水辺の公共性や組織的な仕組み、水辺を取り巻く社会制度の整理など 活動計画： 2013 年度 問題設定と議論の枠組み設定 2014 年度 事例収集と現地調査		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：有 市川尚紀 (近畿大学)、山田圭二郎 (京都大学)、村川三郎 (広島大学)、畔柳昭雄 (日本大学)、上山肇 (法政大学)、坪井塑太郎 (日本大学)、大橋南海子 (まちづくり工房)、岡村昌義 (アトリエ鯨)、菅原遼 (長谷工コーポレーション)、岡村幸二 (建設技術研究所)		
設置 WG (WG 名：目的)			
2013 年度予算	50000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	1. 第 37 回水環境シンポジウム 「歩いて・見て・考えるー親水公園の歴史と景観」 参加者数 40 名
大会研究集会	
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	1. 事例収集整理：岡村委員が加わり新規事例が追加された。 2. 議論枠組み設定：水辺の公私利用計画論について深めていくことにした。 3. 書籍出版：すべての原稿が揃い、校正作業のみを残す段階である。
委員会活動の問題点 ・課題	1. 今年度中に「親水空間論」の最終校正を行い春季に出版する。 2. 書籍出版に伴いシンポジウムなどの企画をする。 3. 水辺の公私計画論について最終目標を設定する。

* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

* 表中の「(書名)」等の赤字は、記述を誘導するための説明である。記載の有無にかかわらず最終的には削除のうえ提出すること。

- * 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- * 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学委員会用 自己評価欄

2013 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>小委員会は、当初の予定通り 5 回開催する予定（3 月の委員会含む）であり、それらの活動によって、以下のような成果を得た。</p> <p>まず、本小委員会前身の都市と親水小委員会で議論されてきた内容を、「親水空間論」という書籍として出版するための議論と作業を行ってきた。これについては、すべての原稿がそろい、最終校正を行えば出版可能な段階である。当初の計画よりも少々遅れ気味ではあるが、概ね目標を達成できたと考える。</p> <p>2013 年 7 月に水環境シンポジウム「歩いて・見て・考えるー親水公園の歴史と景観」を実施した。約 40 名の参加者とともに親水空間事例を踏査することができ、その後の委員会の議題設定に大きく寄与した。その結果、水辺の公私計画論に関する議論を進めることになった。</p>			

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。